

畜産もがみ

第
49
号

● 発行 ●
最上地域農業・畜産振興協議会
住所：新庄市金沢字大道上 2034
(最上総合支庁農業振興課内)
TEL 0233-29-1318
令和6年3月31日発行

最上地域和牛振興研究会

令和5年6月28日(水)、山形最上家畜市場において、「最上地域和牛振興研究会」を開催しました。これまで個体審査が中心の「和牛共進会」として取り組んできましたが、今回は、生産者や畜産関係者のスキルアップを目的とした内容を加え名称も変更しました。

個体審査(1部~3部)には、各和牛改良組合から選抜された優秀な雌牛が集まったので、審査が大変だったようですが、グランドチャンピオン賞には「くによし」号(最上町和牛改良組合の菅嶋登一さん)が選ばれました。

初の試みとなった審査競技会には高校生、農林大学校生、そして畜産農家が参加し、ハイレベルな戦いが繰り広げられた結果、新庄神室産業高等学校の樋口柊羽さんが栄冠に輝きました。

研究会は大盛況のうちに終了し、和牛に対する関心が非常に高まりました。令和9年度には北海道で「第13回全国和牛能力共進会」が開催されます。最上管内からの出品及び上位入賞を目指して、これからも頑張っていきたいと思います。



グランドチャンピオン賞「くによし」号

【個体審査会結果】(敬称略)

区分	優等賞	優良賞
第1部	ちあき(最上町 柴崎栄行)	ふうこ(真室川町 遠田晃広) ふくひめ(新庄市 今田君夫)
第2部	かつざくら(真室川町 三宅充弥)	ふくみず(新庄市 山科新) いのり(最上町 星川桃花)
第3部	くによし ^{※1} (最上町 菅嶋登一)	さやかの4 ^{※2} (金山町 今村彦也) さくら(真室川町 原田博明) まみこ(新庄市 今田実) きくさくら(金山町 岸健一)

※1：グランドチャンピオン賞(県知事賞) ※2：研究会時は「ななふく」で出品、その後「さやかの4」に改名

【審査競技会結果】(敬称略)

区分	所属	氏名
第1位	山形県立新庄神室高等学校	樋口柊羽
第2位	山形県立農林大学校	池内春日
第3位	真室川町和牛改良組合	遠田晃広



和牛振興研究会の様子

【講演会】

講師：公益社団法人全国和牛登録協会 事務局長 工藤太介 氏

演題：第13回全国和牛能力共進会北海道大会に向けて山形県に望むこと

も く じ	
◆最上地域和牛振興研究会 1	◆豚熱、アフリカ豚熱について 7
◆令和5年度最上地域畜産関係共励会表彰式 2	◆家畜改良増殖法の遵守の徹底について 8
◆養豚・肉用家きん意見交換会 3	◆令和5年最上子牛市場取引状況と最近の飼料情勢について . 9
◆令和5年度畜産担い手セミナー 4	◆令和5年最上管内の病類別死廃事故状況 10
◆新たな県産種雄牛「福秀165」号! 5	◆有限会社山口畜産が最優秀賞などを受賞 11
◆最上管内のプレミアム受精卵産子について 6	◆第52回家畜人工授精優良技術発表全国大会 11
◆子実用トウモロコシの取組みについて 6	

令和 5 年度畜産関係共励会表彰式

令和 6 年 2 月 13 日（火）に、最上総合支庁講堂において、令和 5 年度最上地域畜産関係共励会表彰式を開催しました。管内関係者の御臨席のもと、各共励会の入賞者に賞状（最上地域農業・畜産振興協議会長賞等）及び副賞を贈呈しました。



受賞者の皆様

○肉用子牛出荷共励会

令和 5 年 1 月から 12 月の期間中に、山形最上家畜市場において 3 頭以上出荷された生産者の和牛子牛のデータのうち、①出荷時の日齢当たり体重、②同日齢当たり価格、③同日齢、④母牛の分娩間隔（初産牛は初産日齢）の 4 項目について審査しました（受賞者は右の表のとおり）。

令和 5 年の平均成績は、①日齢当たり体重は 1.10kg（R 4：1.12kg）、②日齢当たり価格は 1,847 円（R 4：2,228 円）、③出荷日齢は 280 日（R 4：277 日）、

分娩間隔は 417 日（R 4：407 日）でした。全体的に令和 4 年より低下しているため、飼養管理を徹底し、優良子牛の生産と所得の向上につながることを期待いたします。

肉用子牛出荷共励会入賞者（敬称略）

区分	賞席	氏名	市町村	所属
第 1 部 (10 頭以上)	第 1 位	山科三夫	新庄市	新庄市
	第 2 位	高山正靖	新庄市	もがみ中央
	第 3 位	遠田晃広	真室川町	もがみ中央
第 2 部 (6~9 頭)	第 1 位	大場啓一	最上町	もがみ中央
	第 2 位	矢口政勝	鮭川村	もがみ中央
	第 3 位	佐藤 晋	真室川町	もがみ中央
第 3 部 (3~5 頭)	第 1 位	鈴木克彦	新庄市	もがみ中央
	第 2 位	佐藤寛治	金山町	金山
	第 3 位	菅 肇	最上町	もがみ中央

○牛枝肉共励会

令和 5 年 6 月 5 日（月）に開催された「第 6 回 J A 総称山形牛枝肉共進会」に出品された牛枝肉のうち、最上地域の生産者から出品されたものを対象として審査しました（受賞者は右の表のとおり）。

令和 5 年は、去勢 5 頭、雌 10 頭の計 15 頭の

出品があり、全体成績では、出品された枝肉の等級は全て A 5 で品質の高さが証明されました。BMSNo. は、出品牛 15 頭のうち 8 頭が 12 で、平均も 11.0 と令和 4 年より 0.2 ポイント上昇しました。枝肉重量の平均は、543.9kg で令和 4 年より約 8kg 増加しました。

山形牛肉市場の相場をみると、令和 5 年の A 5 等級の平均価格は 2,780 円/kg で、令和 4 年（2,865 円/kg）に比べ下がっている状況にあり、また、飼料価格の高騰が続き厳しい経営が続いておりますので、一層の飼養管理技術の研鑽により、良質な総称山形牛の生産に努め、所得の向上が図られるよう期待いたします。

牛枝肉共励会入賞者（敬称略）

賞席	氏名	市町村	所属
最優秀賞	加藤優志	金山町	金山
優秀賞	伊藤英悦	新庄市	もがみ中央
優良賞	伊藤英悦	新庄市	もがみ中央

○乳質改善共励会

令和5年6月から9月までの計8回の乳質検査データを利用して、①細菌数、②体細胞数、③無脂固形分率、④乳脂肪率、の4項目について審査しました(受賞者は右の表のとおり)。

平均成績は、細菌数が23千個/ml(R4:17千個/ml)、体細胞数が223千個/ml(R4:215千個/ml)、無脂固形分率が8.67%(R4:8.76%)、乳脂肪率が3.97%(R4:3.97%)、と令和4年から若干下回りました。

近年は猛暑等の異常気象が続いておりますので、適切な飼養管理や衛生管理を心掛けつつ、能力の高い後継牛の確保などにより、一層の乳質改善を図り、所得の向上につながることを期待いたします。

乳質改善共励会入賞者 (敬称略)

区分	賞席	氏名	市町村	所属
第1部 (20頭以上)	第1位	保角義文	新庄市	もがみ中央
	第2位	田宮 徹	新庄市	もがみ中央
	第3位	田宮成彦	新庄市	新庄市
第2部 (20頭未満)	第1位	鈴木藤雄	新庄市	もがみ中央
	第2位	白畑義彦	新庄市	もがみ中央
	第3位	浅野目功	新庄市	新庄市

養豚・肉用家きんの意見交換会

最上総合支庁産業経済部農業振興課

令和5年12月14日(木)に最上総合支庁203会議室において、養豚や肉用家きんの生産者、市町村、農業協同組合、団体、県の関係者による意見交換会を開催しました。

意見交換に先立ち、一般社団法人山形県配合飼料価格安定基金協会 常務理事 三上豊治氏より「配合飼料を巡る情勢について」御講演いただき、畜産業を取り巻く状況について改めて認識する場となりました。

また、農業振興課から「最上管内の養豚・肉用家きんの現状及び子実用トウモロコシの活用について」、家畜保健衛生課より「高病原性鳥インフルエンザ・豚熱の発生状況について」説明があり、最上管内の現状や家畜伝染病の全国の状況などについて把握することができました。

その後、生産者の方から循環型農業を推進する上での堆肥利用の現状や、地域内で飼料の生産及び確保に向けた課題、それぞれの養豚や養鶏の飼養管理等の取組みなどについて、発言をいただき、これからの生産振興に向けて関係者で情報を共有することができました。

参加生産者	畜種	市町村
株式会社オールアグリ	肉用鶏	新庄市
株式会社大商金山牧場	養豚	金山町
有限会社鮭川ピッグファーム	養豚	鮭川村
株式会社アイオイ	肉用鶏	鮭川村
株式会社山形戸沢ファーム	養豚	戸沢村



意見交換会の様子

令和 5 年度畜産担い手セミナー

令和 6 年 2 月 13 日（火）、最上総合支庁 5 階講堂と 5 0 1 会議室で、畜産農家の飼養管理技術の向上と畜産物の品質改善を図るため、肉用牛部門と酪農部門の 2 つに分けて「畜産担い手セミナー」を開催しました（肉用牛部門の一部は、農林水産部畜産振興課主催の「和牛塾」にリモートで参加）。今回の内容が今後の畜産経営に活かされ、更なる生産技術の向上と経営の改善につながることを期待いたします。

○肉用牛部門

- (1) 講演：「ゲノミック育種価を用いた繁殖雌牛の改良について」（和牛塾）

講師：群馬県畜産研究所主席研究員 加藤聡 氏

概要：ゲノミック評価（以下「G 評価」という。）が高い県有繁殖雌牛の体内受精卵を移植して牛を生産した。その牛の中から高 G 評価牛の選抜と保留を繰り返してきた結果、育種改良のスピードアップと正確性を高めることが可能となった。全国に先駆けた取り組みとして評価されている。



肉用牛部門の様子

- (2) 情報提供：「山形県産種雄牛の最新情報について」（和牛塾）

情報提供者：農業総合研究センター畜産研究所 水戸部俊治 開発研究専門員

概要：現在供用中の県産種雄牛 7 頭と次年度以降デビューが期待される候補種雄牛 4 頭の能力や特徴等に関する最新情報が提供された。

- (3) 情報提供：「肉用牛経営の先進地視察報告」

情報提供者：最上総合支庁農業振興課 池田 祥 主査

概要：秋田県の 3 戸（繁殖・肥育一貫経営農家 1 戸・繁殖農家 2 戸）の肉用牛経営者の規模拡大や生産性向上に取り組んでいる事例について情報提供があった。特徴的な事例として、常温の水かぬるま湯を選択できる飲水方法の工夫や、中央通路に対し横長に牛房を配置し、牛が全頭一斉に餌を食べられるような工夫が紹介された。

【イメージ図：牛房を横長に配置】



○酪農部門

- (1) 講演：「自給飼料を活用した酪農経営について」

講師：農業総合研究センター畜産研究所 鈴木和仁 開発研究専門員

概要：生乳生産に必要な飼養管理技術はもとより、粗飼料の乾物摂取量を最大にするためには、牛の「食う」、「寝る」、「飲む」といった 3 大行動の重要性について説明があった。会場からは、たくさんの質問がよせられ、講師だけでなく参加者からも助言が出るなど、少人数ながらも活発な質疑応答となった。



酪農部門の様子

新たな県産種雄牛「福秀165」号！

農業総合研究センター畜産研究所

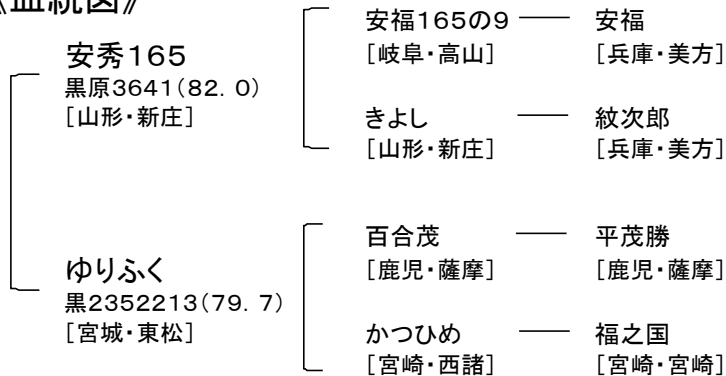
山形県では、和牛の改良と「総称山形牛」のブランド力向上のため、優れた県産種雄牛の作出に取り組んでいます。現在、当所には、気高系の「幸紀陸」「美結喜」「冬景21」「翼満開」、但馬系の「福福照」「美勝喜」が繋養されていますが、このたび、但馬系の種雄牛として、新たに「福秀165」が加わりましたので紹介します。



県産種雄牛「福秀165」号

「福秀165」は、平成30年4月に尾花沢市で生まれました。父は名牛の県産種雄牛「安秀165」です。母は県内でも評価の高い「ゆりふく」、母の父は「百合茂」です。「福秀165」産子の枝肉成績は、歩留基準値が県歴代1位、但馬系種雄牛における雌肥育牛の平均枝肉重量が県歴代1位となりました。食味に優れるものの枝肉重量が小さい傾向の但馬系ですが、「福秀165」は雌肥育牛で大きな枝肉重量が期待されます。さらに牛肉のおいしさに関係する一価不飽和脂肪酸（MUFA）のゲノミック育種価（（独）家畜改良センターとの共同研究により算出）が県産種雄牛17頭の中で2番目に高く、おいしい牛肉を生産するための遺伝的能力を備えています。現在、「福秀165」の人工授精用凍結精液は需要を見込んで増産中です。できるだけ多くの繁殖農家・一貫農家の皆様から利用していただくことで、山形生まれ山形育ちの「総称山形牛」の生産拡大につながることを期待しています。

《血統図》



福秀165産子（雌）のロースの状況（BMS.No12）

表 福秀165の現場後代検定成績（13頭 去勢6頭 雌7頭）

出荷 月齢 (月)	枝肉 重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm ²)	バラ厚 (cm)	皮下 脂肪厚 (cm)	歩留 基準値 (%)	BMS No.	肉質等級 4・5 割合	MUFA G*ランク
30.3 ±0.6	484 ±44	66.7 ±10.0	8.8 ±0.7	2.5 ±0.9	75.7 ±1.7	9.2 ±2.6	92%	A

平均値±標準偏差

※)一価不飽和脂肪酸ゲノミック育種価

最上管内のプレミアム受精卵産子について

農業総合研究センター畜産研究所

畜産研究所では、県内の乳牛改良のスピードアップを目的に、優良牛のOPU、受精卵移植、ゲノム情報を重点とした事業を展開しています。これまでに配布したプレミアム受精卵から、県内各地で9頭の雌産子が誕生しております。その中から、白鷹町で遺伝的評価日本一（GTP I 3,226：米国公表）となる牛が誕生するなど、現在大きな話題となっております。

さて、新庄市昭和の田宮徹氏の牧場においても同牛とフルシスター（両親が同じ）のプレミアム受精卵産子「シースカイ ホープ ザズルキヤプテン ET」が誕生しており、GTP I が3,183と、こちらも世界の上位1%に入る驚異的な評価値でした。母は、輸入受精卵産子「YLES ザズル M ホープ ET（畜研）」、父はキヤプテン。本牛の遺伝的評価項目では「生涯収益性」の高さが特徴的で、また「乳量」は、なんとGTP I 日本一の牛よりも高い数値を持っています。さらに、コンパクトな体型と好乳器に加え、乳質、乳房炎抵抗性、生産寿命の数値の高さ等、牛舎で長く活躍することが期待できます。とても温厚な性格でのびのびと育っているということです。このような遺伝的評価値の高いプレミアム受精卵産子等からOPUによる優良牛の地域的増産が期待されます。また、真室川町の佐藤正樹氏の牧場でも、新たにプレミアム受精卵産子が誕生しており活躍が楽しみです。

今後も、ゲノム情報にもとづいた改良により牛群の底上げを図りながら、酪農家に高い収益をもたらす牛が多く生産できるよう、受精卵移植師の皆さんや関係団体と連携しながら、一歩ずつ地域を盛り上げて参ります。



田宮牧場の皆さまと本牛

子実用トウモロコシの取組みについて

最上総合支庁産業経済部農業振興課

円安や国際情勢の影響によりトウモロコシなどの輸入原料が高騰し、配合飼料価格が高止まりしています。このような中、地域内で子実用トウモロコシ[※]の生産が取り組まれています。県では、令和5年度より飼料コストの低減等に向けた子実用トウモロコシの生産・利用の支援として2つの事業（表1）を実施しています（令和6年度も一部内容を改正して実施予定）。

※子実用トウモロコシ：穀実（子実）のみを収穫・利用する目的で栽培されたトウモロコシ

表1 山形県及び公益社団法人山形県畜産協会の子実用トウモロコシの支援事業

子実用トウモロコシの作付け支援 (山形県)	子実用トウモロコシの収穫支援 (山形県・公益社団法人山形県畜産協会)
【事業概要】 作付けに係る経費の一部を支援 【補助単価】 1万3,000円/10a（初年度）	【事業概要】 収穫用機械の共同利用による収穫支援 【事業内容】 利用条件：「山形県産子実用トウモロコシ生産利用推進協議会」の構成員 利用料：無料（燃料、移動経費、洗浄経費は利用者負担）

また、令和5年度用最上管内の子実用トウモロコシの作付面積は53.0haと県全体の59.7%を占め（表2）、真室川町の農事組合法人ひまわり農場が生産しています。その収穫物は、同町の和牛生産者のほか村山地域の和牛生産者に供給されています。

表2 山形県子実用トウモロコシ作付実績(R5)

地域	市町	面積(ha)
村山	天童市	3.8
	西川町	0.6
	大石田町	10.9
最上	真室川町	53.0
置賜	米沢市	1.9
	小国町	2.5
	飯豊町	7.4
庄内	鶴岡市	5.0
	庄内町	3.7
県合計		88.8



農事組合法人ひまわり農場の圃場

豚熱、アフリカ豚熱について

最上総合支庁家畜保健衛生課

訪日外国人旅行者が大幅に増える中、農林水産省では、「豚熱」よりも致死率が高く有効なワクチンがない「アフリカ豚熱」への警戒を強めています。そこで、豚熱とアフリカ豚熱の発生状況や、その特徴と対策を紹介します。

【豚熱（CSF）】

豚熱は、豚熱ウイルスにより起こる豚、いのししの病気で、強い伝染力と高い致死率が特徴です。症状として、発熱、結膜炎、耳等の紫斑（チアノーゼ）などを引き起こします。ウイルスに感染した豚や汚染物品等との接触などにより感染が拡大します。令和6年2月末現在、46都府県にて飼養豚への豚熱ワクチン接種が行われております。

【アフリカ豚熱（ASF）】

アフリカ豚熱は、アフリカ豚熱ウイルスを原因とする致死率の非常に高い豚、いのししの伝染病で、本ウイルスはその他の家畜には感染しません。名称の似ている「豚熱」とは、まったく異なる疾病です。アフリカ大陸のイボイノシシに常在化していたウイルスが豚に感染し、家畜や精液の導入またはウイルスを含む食品残渣の給与等が原因でヨーロッパやロシア、中国等に拡大しました。

中国での発生確認後、ベトナム、フィリピン、インドネシア、タイ、韓国などのアジア諸国で発生が確認されています。特に韓国では、令和5年12月、日本との定期航路のある釜山市フェリー埠頭の裏山にて野生イノシシの感染が連続して確認されており、日本へのウイルス侵入リスクが高まっています。

【農場等の対策】

豚熱やアフリカ豚熱のウイルスを農場に侵入させないために、生産者や関係者の方々は、次の点に注意してください。

- 畜産関係者の海外渡航の自粛
- 外国人従業員による海外からの肉製品持ち込み厳禁
- 関係者以外、衛生管理区域や畜舎に立ち入らせない（関係者以外の立ち入り制限）
- 人・車両の出入り時の消毒を徹底
- 農場に入る際、衛生管理区域専用の衣服と長靴への交換を徹底
- 畜舎に入る場合、専用衣服・長靴への交換を徹底
- 野生動物の農場への侵入防止対策を徹底

さらに、野生イノシシへのウイルスの伝播を防ぐため、狩猟者や入山者の靴底等の洗浄・消毒、キャンプ場や山林等に飲食物を放置しないこと等も、アフリカ豚熱対策として重要といわれています。

【国の検疫体制】

国際空港や港では、海外からの旅客が持ち込む肉製品等の携帯品からウイルス等が持ち込まれないよう違法畜産物への対応を厳格化しています。

★人や物の動きが盛んとなり、豚熱やアフリカ豚熱の他に口蹄疫等のウイルスのリスクが高まっています。今後も、ウイルスの侵入防止対策の再徹底と早期発見、早期通報の徹底をお願いします！

飼育する家畜、家きんの健康観察を丁寧に行い、異常を認めた場合は、家畜保健衛生課へすぐにご連絡ください。（電話番号 0233-29-1357 24時間対応）

家畜改良増殖法の遵守の徹底について

最上総合支庁産業経済部農業振興課

改正後の家畜改良増殖法が施行されてから3年が経過しました。改めて、家畜改良増殖法の注意点をお知らせしますので、引き続き適正な取扱いをお願いします。

1 獣医師又は家畜人工授精師でない者の自家授精について

獣医師又は家畜人工授精師でない者でも、自己の飼養する雌の家畜に家畜人工授精用精液を注入することは認められていますが、和牛の子牛登記のためには精液証明書（ラベル）と容器（ストロー）が添付された授精証明書の提出が必要です。

なお、授精証明書は獣医師又は家畜人工授精師が精液を注入した雌の家畜の飼養者から要求されたときに交付するもので、獣医師又は家畜人工授精師のみ発行できます。

※受精卵移植の場合も同様

2 家畜人工授精用精液等の適正な取扱いについて

和牛の精液や受精卵の容器（ストロー）には、種雄牛の名称や採取年月日等の表示と、家畜人工授精所の開設者に義務付けられている譲渡等記録簿の記録により、精液・受精卵の流通経路を辿ることができるため、不正な流通が発生した際の関与者を明らかにすることができます。

そのため、家畜人工授精所を介さない家畜人工授精用精液等の譲渡は禁止されています。

また、家畜人工授精所以外の場所では、自己の飼養する雌の家畜に利用する場合を除き、精液等を保存することが認められていません。

なお、家畜人工授精所の開設者の皆様には、農林水産省から、家畜人工授精用精液や受精卵とその証明書の一体的な取扱いを徹底するよう注意喚起されているので、改めて適正な取扱いをお願いします。

《参考：家畜人工授精の開設許可が必要な者》

業務内容	実施者等	家畜人工授精所の開設の許可
精液・受精卵の <u>生産</u>	獣医師 家畜人工授精師	<u>必要</u>
	農家 (自己利用)	不要
精液・受精卵の <u>譲受け・保存</u> (販売又は他者が飼養する牛に注入・移植するため)	獣医師 家畜人工授精師	<u>必要</u>
	農家	<u>必要</u>
精液・受精卵の <u>譲受け・保存</u> (自己が所有する牛に注入・移植するため)	農家	不要
精液・受精卵の <u>譲渡</u>	獣医師 家畜人工授精師	<u>必要</u>
	農家	<u>必要</u>

令和 5 年最上子牛市場取引状況と最近の飼料情勢について

最上総合支庁農業技術普及課

1. 最上子牛市場における取引状況

令和 5 年（1～12 月）の取引頭数は 1,539 頭（前年比 93%）で、去勢は 875 頭、雌は 664 頭でした。取引価格（税込）は平均 558 千円（前年比 84%）で、去勢は 586 千円、雌は 520 千円でした。図-1 は前年と本年の取引頭数と平均価格の推移ですが、枝肉価格の低迷や飼料・資材価格の高騰等による肥育農家の購買意欲等の低下もあり、500 千円を下回る月もありました。なお、令和 5 年は全国的な子牛価格の下落を受け、国がセーフティネットとして措置する肉用子牛生産者補給金制度が、黒毛和種で 21 年ぶりに発動されました。

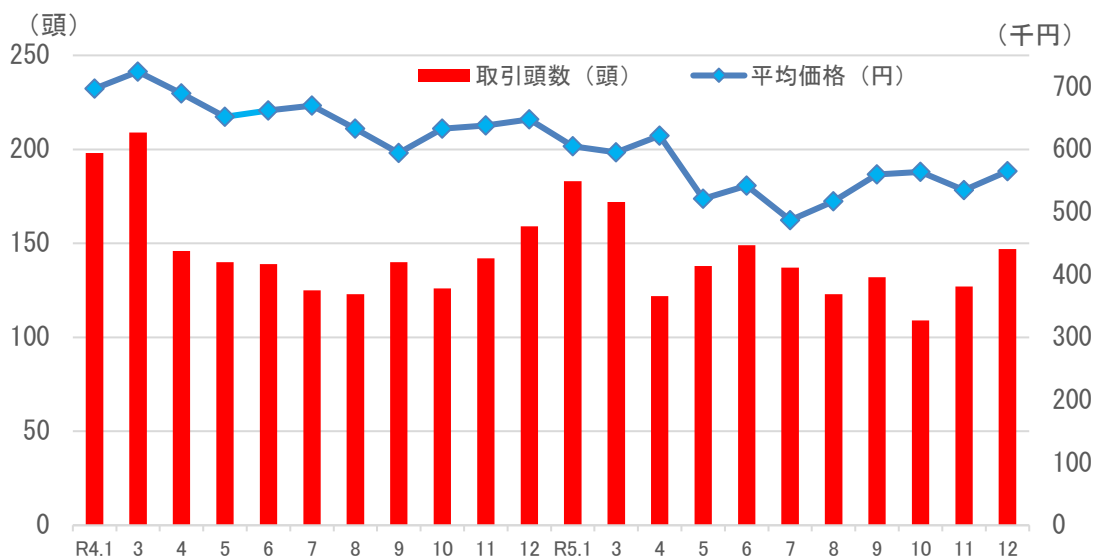


図-1 最上子牛市場 取引頭数と平均価格の推移（令和 4 年 1 月～令和 5 年 12 月）

出典：（公社）山形県畜産協会 HP 最上子牛市場結果

2. 最近の飼料情勢について

輸入粗飼料や配合飼料用穀物の価格は、国際情勢の変化や為替相場等の影響により高止まりが続いています（図-2）。このため、貴重な飼料を無駄なく利用することが重要となりますので、①泌乳量や増体量に応じた適正量を給与する、②多回給餌により残飼や食べこぼしを減らす、③飼槽やウォーターカップの修繕・清掃をこまめに行い、残飼の変敗や異臭等による摂食量低下を防ぐ、④飼料の適切な保管に努め損耗を防止する、など飼養管理を見直しましょう。

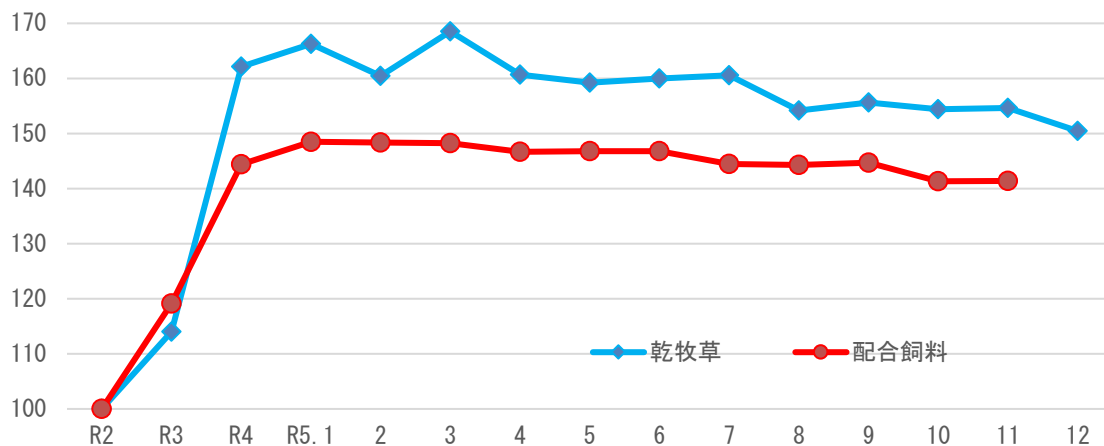


図-2 輸入乾牧草及び配合飼料の価格指数の推移（令和 2 年を 100 とした指数）

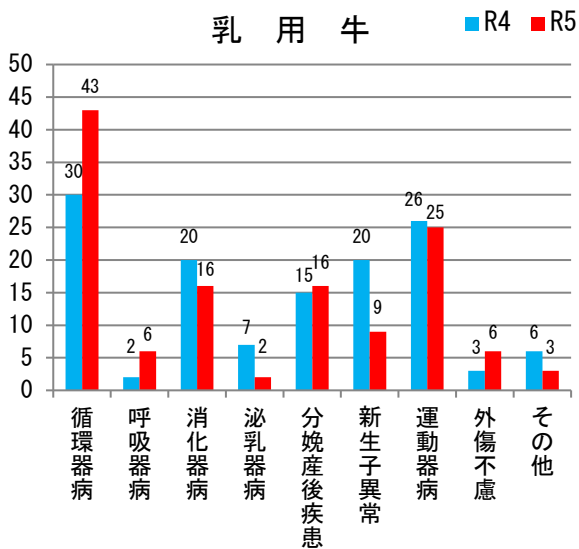
出典：財務省「貿易統計」、農林水産省「飼料月報」〈速報版〉、（公社）配合飼料供給安定機構「飼料月報」データから試算

令和 5 年 最上管内の病類別死廃事故状況

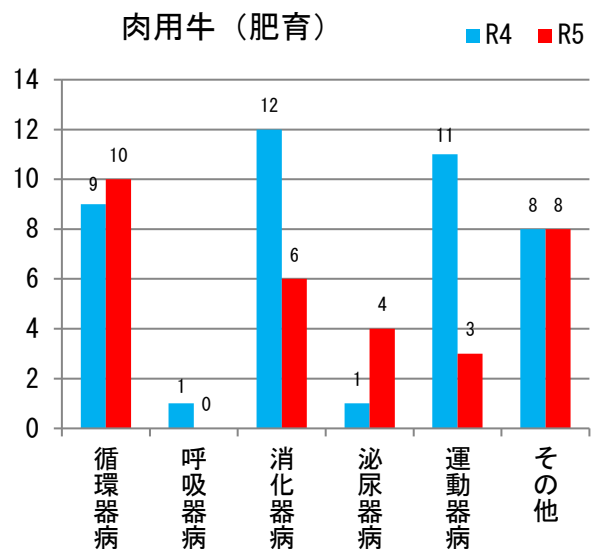
山形県農業共済組合

令和 5 年 1 月から 12 月までの最上地区における死廃事故の状況は、酪農家等の廃業もあり、前年から全体で 16 頭減少していますが、依然として繁殖牛の胎子等の死亡事故が多い状況です。繁殖農家にとって子牛は大切な収入源ですので、給餌時間変更による昼間分娩誘起技術、体温変化による分娩予測、分娩監視システムなども活用しながら、分娩時の立会いを徹底し事故を減らしましょう。

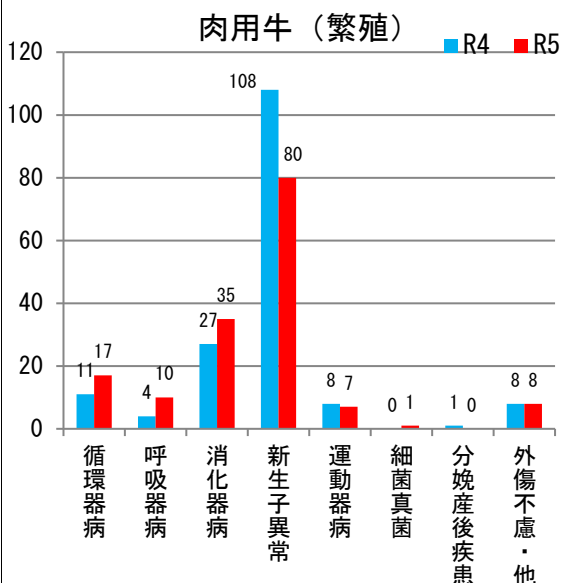
○乳用牛：循環器病（心不全）が大きく増加しています。夏場の猛暑の影響が考えられます。令和 6 年の夏に備えて、暑熱対策の確認が必要と考えられます。



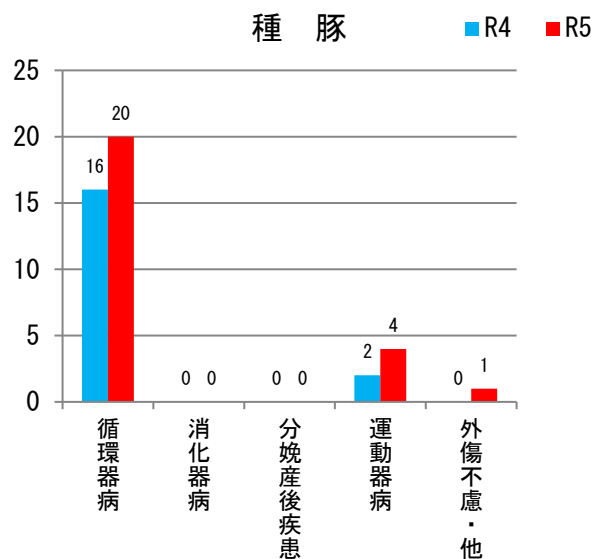
○肉用牛（肥育）：令和 4 年に比べ、消化器病および運動器病が減少しています。よい傾向です。引き続き個体を十分に観察しながら管理しましょう。



○肉用牛（繁殖）：胎子死等の新生子異常が依然として多くを占めています。分娩時の立会いを徹底し、異常時は早めに往診を依頼してください。



○種豚：各疾病で増加傾向にあります。やはり、令和 5 年の猛暑の影響が考えられます。今一度暑熱対策の確認をお願いします。



有限会社山口畜産が最優秀賞などを受賞 ～第 13 回山形県有種雄牛産子枝肉研究会～

令和 6 年 2 月 5 日（月）、株式会社山形県食肉公社において、「第 13 回山形県有種雄牛産子枝肉研究会」が開催されました（主催：山形肉牛協会）。

この研究会で、最上町の有限会社山口畜産が出品した「幸紀陸」の産子が「最優秀賞」、「優良賞」、「特別賞」を受賞しました。優れた飼養管理技術により「幸紀陸」の能力が十分に発揮された形となりました。

県が、山形生まれ・山形育ちの「総称山形牛」の生産を推進する中、有限会社山口畜産においては、県産種雄牛を父とした肥育素牛を確保し、生粋の「総称山形牛」の生産に取り組んでいます。

このような取組みが肉用牛改良を推進し、県全体の肉用牛のレベルアップ、ひいてはブランド力向上に繋がります。



最優秀賞の枝肉
(BMS NO. 12、ロース芯 131 cm²)



最優秀賞の枝肉

「幸紀陸」について

生産者は新庄市の中川和宏さんで、令和 4 年 7 月 1 日にデビューしました。

脂肪交雑が歴代県産種雄牛の中で最も優れ、MUF A 割合も非常に高い検定成績を残しています。



第 52 回家畜人工授精優良技術発表全国大会



菅 剛 氏

令和 6 年 2 月 15 日、東京都千代田区 日経ホールにて第 52 回家畜人工授精優良技術発表全国大会（主催：日本家畜人工授精師協会）が開催されました。山形県家畜人工授精師協会を代表し、最上支部の菅剛氏が「受精卵移植を活用した黒毛和種繁殖経営規模拡大と産地づくりの取組み」について約 250 名の参加者の前で発表し、「優秀発表者」として表彰されました。

審査委員からは「技術の研鑽により高い受胎率を維持し、かつ OPU-IVF（生体卵子吸引技術と体外受精卵技術の組合せ）等の新しい技術を積極的に取り組み、優良家畜の増産に努めている」、さらに、『人作り・牛作り・餌作り』のポリシーは素晴らしい取組みであり、今後の更なる発展を期待したい」と高い評価を受けました。



発表の様子